

検討内容の振り返りとまとめ

1. 会議設置の経緯

おむつリサイクル・ごみ減量推進会議は、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、限りある資源の循環利用について研究を行い、市民の豊かな暮らしを実現する社会を構築するために設置し、下記項目について検討を行う。

- (1)ごみを燃やさずに資源化するための仕組み
- (2)更なるごみ減量施策
- (3)市民が施策を実行するための方策

2. 検討の背景

国が2050年までにカーボンニュートラルの達成を宣言したことを受け、掛川市でも同様の目標設定(※1)をしている。カーボンニュートラルの目標達成のためには、「捨てる量を減らすこと」だけでなく、「捨てることを前提としない活動をする」という市民や事業者の行動スタイル等の変革による「環境と市民生活と経済性」を好循環させることが必要であり、下記の仕組み構築を進める必要がある。

- (1)焼却や埋立に頼る量を減らす次世代型資源循環の仕組みを構築すること
- (2)資源循環のループの中で地域課題解決の仕組みを構築すること

また、掛川市は、環境省の調査(※2)において、一人一日あたりのごみ排出量が最も少ないが、依然として一部の資源がごみとして焼却されている実態もあり、循環経済(サーキュラー・エコノミー)への転換のため、更なる取り組みについて検討が必要である。

これらのことから、各家庭や各事業所でのごみ減量の更なる取組促進の検討はもちろんのこと、カーボンニュートラル社会の実現を見据えたごみ処理体制の構築が必要なことから、市民意見を踏まえた方針決定を目指すこととする。

※1 第3期掛川市地球温暖化防止実行計画

※2 一般廃棄物処理実態調査(人口10万人以上50万人未満、リデュース部門)

3. 整理・確認されたこと(「新たな分別項目」については4.で詳述)

(1)検討事項等

- ・掛川市のごみ処理の現状と将来の目指す姿について整理した。
- ・使用済み紙おむつや製品プラスチック、生ごみ、剪定枝・落ち葉(以下、「新たな分別項目」)の資源化事例や技術の調査・検討、資源化に係る費用、CO₂削減量等の効果、メリット・デメリット等を整理するとともに、掛川市における実現可能性を確認した。
- ・新たな分別項目の先進事例(使用済み紙おむつ、生ごみのリサイクル)の視察を実施し、掛川市における実現可能性を確認した。
- ・新たな分別項目の検討にあたり、地域活動における現状や課題、市民及び事業所の理解協力を得るための手法や区役員等の負担軽減策の必要性について整理した。
- ・掛川市一般廃棄物処理基本計画内における本会議の位置付け及び検討結果の反映について確認した。

(2) 検討の流れ

| 回 | 月日 | 議 題 | 主な内容 |
|-----|--------------|---|--|
| 第1回 | 5月15日 | ①会議設置の目的と目指す姿 ②検討事項とスケジュール ③掛川市のごみ処理の状況と目指す姿 | ・会議の設置目的と取組内容の確認 ・ごみ処理の現状とフロー ・目指す姿の確認 |
| 第2回 | 7月14日 | ①掛川市が目指す資源循環の姿 ②新たな分別を検討する項目 ③掛川市一般廃棄物処理基本計画と改定のポイント ④先進事例の視察 | ・新たに分別を検討する項目の整理 ・計画内における推進会議の位置づけの確認 ・処理スキームのイメージの共有 ・先進地視察の概要 |
| 第3回 | 9月 26～27日 | ・先進地視察 ①千葉県松戸市 ②宮城県南三陸町 | ・先進地への視察を実施 ①使用済み紙おむつ（事業系） ②生ごみ（家庭系） |
| 第4回 | 10月12日 | ①先進地視察報告 ②ごみ収集における地域の現状と課題共有 ③新しい分別項目における処理方法の整理 | ・先進地視察の報告 ・新たな分別項目を検討する上での課題等の確認 ・分別項目における処理方法の整理 |
| 第5回 | 12月15日 | ①新しい分別項目における方向性について ②新たな分別への理解促進に向けた留意事項と取り組み ③一般廃棄物処理基本計画（案）について | ・新たな分別項目の実現可能性等の確認 ・市民・事業者の理解促進策の検討に関すること ・一般廃棄物処理基本計画（案）の説明 |

4. 新たな分別項目における検討の流れ

【第1回】（令和5年5月15日）

掛川市は、環境省の調査（令和2、3年度）における人口10万人以上50万人未満の市町村の中で、最もごみ排出量が少ない。その中でも、現状に満足することなく更なるごみ減量の取組を進め、ごみ処理を焼却と埋立に依存しない新たな社会構築に向け、使用済み紙おむつや製品プラスチック等「新たな分別項目」の資源化検討の必要性について確認した。

【第2回】（令和5年7月14日）

新たな分別項目を取り巻く現状や社会情勢等について理解するとともに、これらの項目を資源として回収した場合の定量的な効果（ごみ焼却量や焼却に伴うGHG排出量の削減等）や処理スキームイメージと定性的な効果（処理スキームがもたらす市民の利便性や負担等）について整理した。その上で、使用済み紙おむつや製品プラスチック等を資源として回収するために市民・事業者・行政の3者がそれぞれ取り組み、検討を進めていく必要性について整理した。

また、本年度実施する一般廃棄物処理基本計画の改定において、推進会議での検討内容を反映する予定であることを確認。

【第3回】（令和5年9月26～27日）

「新たな分別を検討する項目」のうち「使用済み紙おむつ」と「生ごみ」について、先進事例の視察を実施し、資源化に向けた取組における現状や課題、掛川市での実現可能性を整理した。

【第4回】（令和5年10月12日）

「新たな分別項目」を検討する上で、掛川市のごみ収集における地域の現状と課題について整理した。また、先進事例の視察や事業者との協議で得られた情報から、第2回で整理した処理スキームイメージをより深化させ、具体的な処理方法とスキームを検討し、それぞれのメリットやデメリット等について整理した。

【第5回】（令和5年12月15日）

「新たな分別項目」の方向性について、第4回で整理した具体的な処理方法とスキームに基づき、定量的な効果（収集運搬や処理に係る費用及びCO₂削減量）及び定性的な効果（処理スキームがもたらす市民の利便性や負担等）、実現可能性等について整理し、総合的な観点から資源化の方向性について検討した。

5. 第5回までの検討状況の整理

(1) 新たな分別項目の検討状況と主な留意事項

| 分別項目 | 検討状況 |
|----------|---|
| 使用済み紙おむつ | [処理・回収方法] 1. 再生紙おむつにリサイクルする「水平リサイクル」と固形燃料化する「RPF製造リサイクル」の方式の内、「RPF製造リサイクル」の実現可能性が高い。 ・「集積所回収」又は「拠点回収」が考えられる。 [主な留意事項] ・収集方法（集積所又は拠点等）の検討が必要。 ・専用収集袋の検討やにおい等衛生対策が必要。 ・RPFの利用先の確保が必要。 |
| 製品プラスチック | [処理・回収方法] ・「集積所回収」と「拠点回収」が考えられ、併用が望ましい。 [主な留意事項] ・回収可能な品目の設定と市民への周知方法の検討が必要。 |
| 生ごみ | [処理・回収方法] ・「既存民間施設への処理委託方式」を主として検討し、「新施設建設及び管理運営民間委託方式」については、継続検討とする。 ・「集積所回収」を基本に検討する。 [主な留意事項] ・専用収集袋の検討やにおい等衛生対策が必要。 ・生ごみのうち、回収可能なごみの選定と周知が必要。 |
| 剪定枝・落ち葉 | [処理・回収方法] 剪定枝：資源化処理事業者による処理を促進する。 落ち葉：公園等の落ち葉の資源化と自治会での堆肥化を促進する。 [主な留意事項] 剪定枝：市内資源化処理事業者への搬入促進が必要。 落ち葉：自治会による堆肥化設備の管理が必要。 |

(2) 検討のポイント

① 市民・事業者の理解促進

- ・分別項目の追加や排出方法の変更内容だけでなく、分別項目を追加する目的（ごみ減量と資源化促進によるカーボンニュートラルの実現等）について市民・事業者の理解促進を図る方法や具体的な施策の検討。
- ・事業所におけるごみ減量の取組や資源化を促進する方法、具体的な施策の検討。
- ・単身者や転入者、外国人市民、高齢者等の正しい分別、ごみ出しを推進する方法の検討。

② 地域の負担軽減

- ・分別項目の追加や排出方法の変更により、区役員やクリーン推進員を中心とした集積所等における自治区等の負担軽減策の検討。
- ・収集場所や頻度の見直しを検討するとともに、市内のごみ分別方法の統一に向けた検討。

③ 一般廃棄物処理基本計画について

本会議の理念である「環境の持続性と豊かな暮らしの同時実現」基本方針とし、1人1日当たりのごみ総排出量の目標値を定め、基本方針と目標達成のために、(1)6R、(2)収集・運搬計画、(3)中間処理計画、(4)最終処分計画、(5)その他に対して施策を検討した。

6. 新たな分別項目の資源化の方向性

| 分別項目 | 資源化の方向性 |
|----------|---|
| 使用済み紙おむつ | <ul style="list-style-type: none">・全国の事例等を踏まえ、掛川市での実現可能性やコスト、資源循環等について研究するとともに収集方法や場所、広域処理についてもあわせて検討を進める。・「RPF製造方式」を主として、事業系及び家庭系の実証実験等の実施も視野に、掛川市での実現可能性を含めた検討を行うとともに、「水平リサイクル方式」についても技術動向や事例・手法等の研究を継続する。 |
| 製品プラスチック | <ul style="list-style-type: none">・従来の分別区分に製品プラスチックを追加し、民間の資源化業者を活用したりサイクルを検討する。・令和7年度にモデル地区、令和8年度に市内全域で実施を目標に進める。・民間企業と連携した回収も組み合わせることで、資源回収の効率化と市民の利便性を確保した資源化スキームの検討を進める。 |
| 生ごみ | <ul style="list-style-type: none">・生ごみの分別収集をモデル地区で開始したのち、市内全域を対象としたリサイクルの実施を検討する。・各家庭における生ごみ減量推進に向けた促進策を検討するとともに、市民活動団体と連携したミニキエー口の普及など市民が取り組みやすい方策の検討を進める。・飲食店等の事業所についても、資源化移行促進策の検討や食ロス削減に向けた取組を検討する。 |
| 剪定枝・落ち葉 | <ul style="list-style-type: none">・剪定枝：資源化処理事業者によるリサイクル（チップ化・堆肥化等）を促進するため、効果的な支援について検討する。・落ち葉：公園・街路樹の落ち葉のリサイクルスキームの構築を検討するとともに、自治会での堆肥化を推奨し、効果的な支援について検討する。 |